

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：福岡筑後プラスチックリサイクル推進協議会

## 事業名称 1：プラスチックリサイクルに関する住民行動モデル確立事業

### あらすじ

住民が自らのライフスタイルを見直し、プラスチックのリユース・リサイクルに積極的に取り組むために、リユース・リサイクル行動の意義やライフスタイル改善のための行動変容を導く。また、各自治体や住民団体が主体的に実施できるように、ワークショップや環境教育のマニュアル化を行う。また、協議会の親しみやすいニックネームやロゴを作成し、再生プラスチック製品の認証マークとして活用することにより、購買行動やリサイクル行動を意義付けを促進する。

### ストーリー

日本では現在マテリアルリサイクルされているプラスチックの割合は全体の約23%と、EU（30%前後）と比較すると決して高くない数値である。プラスチックリサイクル率の向上のためには住民の意識改革・ライフスタイルの転換・行動変容が必要不可欠である。協議会の構成自治体である大木町・みやま市・柳川市・筑後市・大川市は連携して地域内でのプラスチック循環に取り組んでいる自治体である。この南筑後地域での環境教育モデルを形成するとともに、南筑後地域の認証マーク入りのプラスチック製品が住民の生活にかえることにより、住民がプラスチックの地域循環を実感することができ、行動変容へと繋がる。この地域循環のための南筑後モデルを今後は全国へ展開していく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	プラスチックのリユース・リサイクルが住民の生活の一部となっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民への周知</li> <li>・ワークショップへの参加者の確保</li> </ul>
②課題	参加する住民・自治体の確保	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	住民の意識改革・行動変容のため	
④地域資源	地域住民、企業、大学、自治体	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	住民ワークショップ・環境教育のマニュアル	
⑥担い手 (Who)	九州大学、北九州市立大学、エコープ、大日本印刷、大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	プラスチックリサイクルの啓発が住民同士で行われている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコミ関係（テレビ・新聞社）</li> <li>・各自治体住民団体</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	プラスチック回収率の向上、全国へのプラスチック循環モデルの展開	

**事業名称 2：廃プラスチックの高品質な材料リサイクルやケミカルリサイクルの企業ネットワークの確立事業**

あらすじ

現在、参加自治体 5 市町では製品プラスチックを町内のリサイクル事業者である株式会社YKクリーンでのケミカルリサイクル（油化）と、県外の事業所での油化不適合物のマテリアルリサイクルの 2 つの手法でリサイクルを行っている。後者のプラスチックを素材特性に優れ、産業素材としての適性を備えた高品質の材料にリサイクルするシステムに確立することで、ケミカルリサイクル（油化）とマテリアルリサイクルを組み合わせることで、地域循環型のリサイクルネットワークを確立する。また、容器包装プラスチックについても、現在は県外でマテリアルリサイクルされているため、製品プラスチック同様地域循環型のケミカルリサイクルとマテリアルリサイクルのネットワークの確立を行う。

ストーリー

今までは容器包装プラスチックのみのリサイクルが自治体のリサイクルの対象であったが、令和 4 年 4 月からプラスチック資源循環法が施行され、今後は製品プラスチックも含めて一括回収し、リサイクルすることが自治体側の努力義務となる。そのため、一般廃棄物中の製品プラの収集・リサイクルは今後、南筑後地域のみならず、全国の自治体にとってもプラスチックリサイクルにおける重要な課題である。また、地域循環共生圏の実現のために、リサイクルしたプラスチック資源を地域資源として地域内に還元し、循環させるシステムの確立が必要である。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	プラスチックの地域内循環が行われている南筑後地域	・プラスチック製品を生産するためのランニングコストがかかる
②課題	マテリアルリサイクルを行う企業ネットワークの確保	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	プラスチック資源を地域内で循環させるため	
④地域資源	地域内で排出されるプラスチック、株式会社YKクリーン	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	再生プラスチックによる高品質なプラスチック製品	
⑥担い手 (Who)	福岡大学、九州大学、株式会社YKクリーン、いその株式会社、岐阜プラスチック工業株式会社、福岡県工業技術センター、大木町、みやま市、柳川市、筑後市、大川市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	廃プラスチックと経済の地域内循環	再生プラスチック素材での材料リサイクルを行う企業・金融機関
⑧事業で生じる成果	地域内でのCO2排出量・エネルギー使用量の削減、地元企業の育成、環境配慮設計指針のモデル構築、資源循環のバリューチェーン構築、プラスチック資源循環に関するデータベース構築、ESG投資に関する情報提供（データベース化）	

事業名称3：使用済み紙おむつの地域循環ネットワーク形成事業		
あらすじ		
使用済み紙おむつから排出されるプラスチックを利用した製品を地域内に還元し、循環させるシステムの確立を行うとともに、使用済み紙おむつリサイクルの環境効果・経済効果を明確にし、参加自治体の拡大に取り組む。		
ストーリー		
現在、紙おむつの生産量は20年前と比較すると3倍まで増加しており、今後高齢化に伴い紙おむつの生産量・消費量は年々増加していくことが予想され、材料となる良質なパルプやプラスチックといった資源を活かしていくためにも、使用済み紙おむつのリサイクルは避けられない。使用済み紙おむつリサイクルに取り組む自治体は、南筑後地域のうち大木町とみやま市の2市町が取り組んでおり、今後は南筑後地域での使用済み紙おむつリサイクルに取り組む自治体を増やしていくとともに、地域内でのプラスチック資源循環を行うためのシステムの構築を行う。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	使用済み紙おむつの地域内循環が行われている南筑後地域	参加自治体の拡大
②課題	参加自治体の拡大	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	使用済み紙おむつを地域内で循環させるため	
④地域資源	地域内で回収される使用済み紙おむつ、紙おむつのリサイクル企業であるトータルケア・システム株式会社	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	使用済み紙おむつに含まれるプラスチックからできた再生品	
⑥担い手(Who)	トータルケア・システム株式会社、株式会社YKクリーン、いその株式会社、福岡大学、九州大学、大木町、みやま市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	使用済み紙おむつから排出される廃プラスチックの地域内循環	・各自治体首長
⑧事業で生じる成果	南筑後地域でのCO2排出量・エネルギー使用量の削減、エネルギー消費量の削減	

事業名称4：リサイクル分類の再視覚化事業		
あらすじ		
プラスチックの種類は、多様であり、複雑である。しかしプラスチックの分別のカテゴリーは多くなく、これにより生じる手作業は重労働である。プラスチックごみの9割はリサイクルマークが付いているが、油化されるものはリサイクルマークが付いていないものになる。プラスチックごみの分別数を増やしながら、よりわかりやすい分別マークを考え、わかりやすい表記にし、地域や家庭内での分別をより効率的効果的にすることで、ボトルネックを解消しながら、回収率を上げる方法をデザインしていく。		
ストーリー		
海外ではプラスチックの分類は1～7の番号が割り振られていて、その番号ごとにどの種類のプラスチックかが明確化されている。協議会の構成自治体の大木町・みやま市・柳川市・筑後市・大川市は連携して地域内でのプラスチック循環に取り組んでいる自治体である。この南筑後地域での分類行動を分析することで余映わかりやすい分類記号やどの段階で、どういった情報が必要であるかを把握し、情報デザインを行う。その記号による行動の変化を分析したうえで、他地域でも使用可能なリサイクル情報デザインに展開していく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	プラスチックの回収効率があがり、住民が実感をもてる	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
②課題	参加する住民へのインタビュー調査・行動観察	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	住民の意識改革・行動変容のため	
④地域資源	地域住民、大学生	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	リサイクル情報アイコンやそのマニュアル	
⑥担い手(Who)	九州大学未来構想デザインコース学生	大学生・地域NPOなど
⑦事業で生じる循環	プラスチックリサイクルの回収率の工場	
⑧事業で生じる成果	全国へのプラスチック情報デザインモデルの展開	

**事業名称5：地域活性化事業としてのプラスチックリサイクル活動事業**

あらすじ

環境に優しい取り組みを通して、プラスチックリサイクル活動を通して商店街や各地域の商業の活性化を行う。各地域の現状を踏まえて、ふるさと納税の寄付する人が選べる使い道の選択肢に、商店街活性化事業を追加する。そこで得た資金で商店街などが指定エコバックを用いるなど環境配慮への取り組みを行う。地域住民の人は商店街の環境配慮の活動に参加することで、お得に買い物ができる。そして、商店街へ定着することで商店街の活性化となるような方法の構築を目指す。

ストーリー

- ①経済的支援と地域住民の継続的な利用を促す取り組みによって、商店街が発展し地域全体の活性化につながる
  - ②商店街の利用が増えることで地元で生産されたものが地域内で消費されやすくなる
  - ③支援金により店側が環境保護のための活動に積極的になる 消費者はポイント等のサービスを楽しむために環境保護の取り組みに参加する
- などの仕組みづくりをおし地域活性化事業としてのプラスチックリサイクル活動を検討する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	プラスチックの地域内循環が行われている南筑後地域	
②課題	マテリアルリサイクルを行う地域NPOなど	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	プラスチック資源を地域内で循環させるため	
④地域資源	地域内で排出されるプラスチック、株式会社YKクリーン	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	ふるさと納税の返礼品	
⑥担い手 (Who)	福岡大学、九州大学、株式会社YKクリーン、いその株式会社、岐阜プラスチック工業株式会社、福岡県工業技術センター、大木町、みやま市、柳川市、筑後市、太田市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域と回収方法の連関や連携	大学生・地域NPOなど
⑧事業で生じる成果	これらの取り組みを通して容器包装プラゴミの削減を商店街全体で取り組むとともに、商店街の利用客の数を継続的に確保する 商店街が活性化することで地域間の交流も増える その資金集めをふるさと納税で行うことで柳川市のブランド品の売り上げにもつながる	

**事業名称6：回収場所のマネタイズ事業**

あらすじ

現在の問題点は、プラスチックゴミに限らず、多量の製品が生産されては廃棄されてる。また人々の関係もうずれてきている。回収場所をみんなで作る施設とし、家庭で使わなくなったものをもちよる施設、プラスチックゴミを回収施設、リサイクルプラスチック製品を置く施設を構築する。

ストーリー

回収場所をプロモートし、そこにリサイクルに係る情報や商品並を集め、回収場所自体の商品価値を高める。さらにリサイクルプラスチック製品が自分の捨てたゴミから作られるというリサイクルへの貢献の実感があることができ、さらには施設を通してコミュニティを形成を可能なような仕組みをつくり、将来へのプラットフォーム形成を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	回収行為によるコミュニティ形成	参加自治体の拡大
②課題	参加自治体の拡大	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	回収場所を商品化することによる収益の拡大とプラットフォーム生成	
④地域資源	すでにある大木町の環境施設	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	改修場所（環境プラザ）のプラットフォーム化と商品化	
⑥担い手 (Who)	九州大学、大木町、みやま市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	回収率の向上	
⑧事業で生じる成果	リサイクルコストの低減	